



♡ことばの力 ♡からだの力 ♡こころの力

# 園長室だより

城南学園幼稚園 園長 太田友子 平成27年3月24日

「小学校につながる確かな学びの基礎を培う」幼稚園



ご卒園 おめでとうございます！

バトンが手渡されました！



確かな春の訪れが感じられる、3月15日(日)、本園を57名の子どもたちが元気に巣立っていきました。修了証書授与式では、一人ひとりが、「僕は警察官になりたいです！」「私は獣医さんになります！」など将来への夢をしっかりと宣言しました。

一方、園児代表として出席した年中組の園児たちは、「強くて優しい年長組さんになります！」と頼もしい決意を語り、確かにバトンが手渡されました。

2月18日(水)、保護者会主催の「おわかれ会」で、入園時からの写真を使った「スライドショー」を披露していただき、心身の成長ぶりを実感する機会となりました。保護者会の皆さま、こころのこもった企画に心から感謝申し上げます。

幼児期の3年間は、特にその後の人間形成の上で大きな影響を及ぼすといわれますが、人として確かな礎(いしずえ)が築かれたように感じています。

お家の人から離れてたった一人で臨んだ初めての世界、それが幼稚園でした。不安や戸惑いの中本当によく乗り越えたと思います。先生や友だちといっしょに、幼稚園の楽しさを身体全体で感じ取っていった、その健気さとたくましさ大きな拍手を贈りたいと思います。社会人の第一歩を見事にクリアしたのですもの。社会(幼稚園)って、思うどおりにならないことや約束ごともあるけれど、でもやっぱり楽しい！トラブルを乗り越えて、仲直りする力や我慢する力などを獲得していきました。

やっぱり子どもってすごい！そう思いませんか。

いかにして

## 「折り合う力」を育むか？



少子化や核家族化の影響で低下が指摘される若者のコミュニケーション力。その育成を意図的に幼児期から始める研究が進んでいます。一見、対話を断ち切るようにも響く「いや！」という自己主張も、コミュニケーションのスタートに位置づけて、交渉や折り合いが生まれる環境として整えていくことが求められています。

例えば、5歳児になると、子ども同士で交渉して折り合いをつける場面がよく見られるようになります。三輪車を取り合うような場面です。「代わって！」という5歳児のAに、乗っていたBは、「まだだめ。ちょっとしか乗ってないもん！」と断る。「代わって、代わって、代わって。代わってって何回言えばいいの？」と食いさがるAに、「仕方がないなあ」とあけ渡してあげるB。この後、「(譲ってあげる代わりに)じゃあ、後ろに乗るで！」と言うBに、すかさず、Aは「あかん！」と言う。それでも無理やり乗ったBに「(後ろで)こがんといてや！」と折り合いをつけていく。このように、「だめ」「あかん」から対立状況が生まれ、「じゃあ」と折り合いをつけていく子どもたち。「いや」と言って相手とぶつかっても、一緒に遊びたいと思ったら、折り合いをつけることが必要になります。だから、「仕方がないなあ。」と自分も乗りたいけれど相手を思っているんだという表現も出てくるし、「乗るで」と断りの言葉があったから、「こがんといて」という譲歩する言葉が生まれてくるのです。



子どもの世界って実におもしろいですね！「折り合う力」、大人にも一番ほしい力かもしれません。



この一年、本園にお寄せいただいたご理解とご協力に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。